

“今週の国際宇宙ステーション(ISS)”

※特に断りの無い限り日付は日本時間です。

- ☆最初のISS構成要素打上げから2153日経過しました
- ☆第9次長期滞在クルーのISS滞在は175日経過しました
- ☆ISS動向

第9次長期滞在クルーのゲナディ・パダルカ、マイケル・フィンク両宇宙飛行士のISS滞在は残りわずかとなり、ふたりは10月23日の帰還に備えた準備を続けています。

10月7日には米国の科学実験ふたつを終了しました。

ひとつは、長期間にわたる宇宙での生活が人間の骨格や筋肉に与える影響を調べる実験のため記録を取りました。この実験は、微小重力環境が骨格筋に影響を与える時間変化を測るものです。この研究により火星への有人飛行における筋力の変化を予測することが可能になると期待されています。

もうひとつの実験である発展型超音波診断(ADUM)実験も終了しました。ADUMは、医学データを地上に早く伝えることを目的としており、地上での遠隔医療に役立つと期待されています。

第10次長期滞在クルーのリロイ・チャオ、サリザン・シャリポフ両宇宙飛行士と短期訪問クルー(タクシークルー)であるロシアのユーリ・シャーギン宇宙飛行士は10月14日にカザフスタン共和国のバイコヌール宇宙基地を出発し、10月16日にISSに到着する予定です。

シャーギン宇宙飛行士はISSでロシアと欧州宇宙機関(ESA)の実験を行い、第9次長期滞在クルーとともに10月24日に地球に帰還する予定です。

第10次長期滞在クルー打上げについての情報は以下のページもご覧下さい。

<http://iss.sfo.jaxa.jp/iss/9s/>



©Energia

第10次長期滞在クルー
(リロイ・チャオ(右)、ユーリ・シャーギン(左)、サリザン・シャリポフ(中央)宇宙飛行士)



©Energia

打上げ準備中のソユーズ宇宙船(9S)



フェアリングに納められ、ロケット組立・試験棟に運ばれるソユーズ宇宙船(9S)

“スペースシャトル飛行再開に向けて”

☆ハリケーン一過、ケネディ宇宙センターの状況

米国フロリダ州NASAケネディ宇宙センター(KSC)では、8月から9月の間に4つのハリケーンに襲われ、いくつかの建物に被害がおよびました。現在、スペースシャトル飛行再開に向けて、スペースシャトル組立棟(VAB)の暫定的な修理作業が着々と進められています。壁に開いた穴を塞ぐための修理作業は昼夜を問わず行われ、夜間は10基の照明を当てながら作業が続けられました。壁と屋根の穴は暫定的に塞がれ、VABは通常業務ができるようになりました。

現在行われている修理は、建物を使えるようにするための一時的なもので、数ヶ月のうちに恒久的な修理作業が開始される予定です。

関連NASAページ: <http://www.nasa.gov/centers/kennedy/>



約850枚の外壁パネルが吹き飛ばされました



夜を徹して続く修復作業



パネルで塞がれた外壁

“トピック”

☆棚橋泰文科学技術政策担当大臣、筑波宇宙センター御視察

10月8日(金)、棚橋泰文科学技術政策担当大臣が、筑波宇宙センターを訪問し、「きぼう」日本実験棟、技術試験衛星VIII型(ETS-VIII)などを視察されました。棚橋大臣は、無塵衣を着て宇宙ステーション試験棟のクリーンルームに入り、「きぼう」日本実験棟の船外パレットやロボットアームなど各構成要素や、「きぼう」に搭載される実験装置の実物の前で説明に耳を傾け、日本の有人宇宙技術などについて熱心に質問されていました。



「きぼう」日本実験棟を視察する棚橋大臣(青い帽子、左は毛利宇宙飛行士)

問い合わせ先: 宇宙航空研究開発機構 宇宙ステーション・きぼう広報・情報センター TEL: 029-868-3074

ホームページ <http://iss.sfo.jaxa.jp/>

Eメール kibo-pao@jaxa.jp

ウィークリーニュースメーリングサービス登録 <http://iss.sfo.jaxa.jp/weekly/index.html>

※「ISS・きぼうウィークリーニュース」に掲載された記事を転載する場合、本ウィークリーニュースから転載した旨を記述ください。